

# “連携”から“協働”へ 介護支援専門員としてのかかわり



作田晴子 [さくだ・せいこ]  
老人保健施設かなえ  
(広島県)

## はじめに

私が当施設に入職したのは、大学を卒業後すぐのことです。介護職から経験を重ね実務3年で介護福祉士を取得し、その後、社会福祉士、介護支援専門員を取得しました。職種としても介護職から支援相談員となり、相談業務を何年か経験しました。

8年間老健施設に勤めた後、2006年に異動で一度老健施設を離れ、同法人内の看護小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所などで介護支援専門員として勤めました。2021年、再び専従の介護支援専門員として当施設に戻って来たときには15年が経っていました。

15年のギャップは大きく戸惑いもしましたが、居宅と施設両方を経験したからこそ、利用者や家族へのかかわり方、ケアマネジメントへの取り組み方も変化したと思います。

## 施設について

当施設のある広島県福山市は県東部に位置し、人口46万人・高齢化率は29.5%となっています。瀬戸内海に面し、しまなみ海道ややまなみ街道にも近く、自然豊かで温暖な地域です。

当施設は医療法人永和会の福祉事業として1994年6月6日に開所。2024年に30周年を迎えました。入所90床（一般棟50床、認知症専門棟40床）、ショートステイは空床利用となっています。通所リハビリ（定員：午前20名・午後20名の2部制）と訪問リハビリを併設しています。当法人の福祉事業としては、他に

認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション、サービス付き高齢者住宅、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護支援事業所を運営しています。

## 業務について

老健施設の介護支援専門員の業務としては、利用者のアセスメント・プラン作成・カンファレンスの実施・評価・再アセスメントであり、PDCAサイクルの繰り返しとなります。

老健施設の役割として、在宅復帰や本人のADLの向上をめざすことも大切であり、リハビリ計画や栄養、褥瘡、排泄についても介護支援専門員が多職種連携の軸となり、連携をとりながら計画の実施ができるように取り組んでいます。利用者それぞれの課題を話し合い、なりたい姿をイメージし目標に向かう。各専門職が協働できるケアプランを作成しています。

老健施設の仕組みとして、職員はピラミッド型でなくドーナツ型であることを常に意識し、「利用者中心」を大前提に各専門職と話をしています。利用者の代弁者として、個別性のあるプラン作成をめざしています。

## 介護支援専門員としてのかかわり

老健施設から在宅部門の部署に異動になり、居宅介護支援事業所や看護小規模多機能型居宅介護でケアマネジメントを実践するなかで、介護支援専門